【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立大良小学校

1　前年度 評価結果の概要	・学校教育目標を念頭に、全職員が計画的・組織的に対応することができたために、校内評価及び学校関係者評価の最終評価において、A評価が9項目中7～8項目となった。 ・他者との交流が児童の間に浸透してきており、他者の考えに触れることは児童にとってスタンダードになってきた。今後は、お互いの考えを交換することでさらに考えを深めていくことができる授業づくりを追求していく。 ・自己肯定感、自己有用感を高めるために、全校でスピーチタイムや児童集会での個人発表に取り組んだ。また、運動会や卒業式などで個々の役割を明確にし、取り組ませ、承認してきたことで、授業中や集会等で自信をもった言動が増えてきた。 ・地域・家庭との強い結びつきは、学校運営上とても大きな力となった。今後は、校内、校外での安全への意識向上を目指して更なる連携を行っていく。
2　学校教育目標	**心豊かで　自他ともに大切にし　共に学び合う　たくましい子どもの育成** **～正しく，かしこく，たくましく～**

3　本年度の重点目標				
〇かしこい子ども **よく見て，よく聴き，考えを持ち，伝え合う子**	**〇自分も周りの人も大切にする子ども** **よさを認め、思いやりと感謝の心をもつ子ども**	**〇元気で落ちついた子ども** **基本的生活習慣が整い、元気と落ち着きのある子ども**	**→** **三方向から** **←** **三方向へ**	**新たな活動に向かう** **「心のバネ」** ※心のバネ…自己肯定感を土台に達成感や満足感のある活動を仕組み、それが次の新しい活動への興味・関心・指向性へとつながる心のはたらき

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	〇基礎・基本の定着と主体的に学ぶ態度の育成	〇「授業が分かり楽しい」と感じる児童を90%以上にする。	・授業では一人で考える時間を十分に確保し、自分の考えをもって，話し合い活動に取り組ませる。伝え合うことで相手の意見と比べ，自分の考えをより深め、確かなものにできるようにさせる。	B	・「授業が分かる」が90%、「授業が楽しい」が80%いるが、「考えを発表したり、感想交流をしたりするのは好きか」は55%であった。話し合い活動で自分の考えを伝えることには消極的な児童への支援が必要である。	A	・学年に応じて、わかりやすい授業をされていると感じた。 ・家で本をほとんど読まない。	・学力向上部 ・担任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇道徳の授業の中に、議論する活動を仕組み、道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にする。	・道徳の時間にも「伝え合う活動」を取り入れ、様々な考えを出し合う中で豊かな心が育つようにしていく。 ・年１回「ふれあい道徳」等で保護者に道徳の授業を公開し、家庭と学校が連携して道徳的な心を育てていく。	A	・「道徳や人を大切にする授業では、しっかり話を聞いて考えているか」が、90%で、「友達と楽しく過ごせているか」も94%おり、道徳で学んだことが人間関係に生かされていることがうかがえる。 ・道徳教育の公開授業や、その後の子どもたちの感想を通信等で知らせることにより、保護者も「学校は道徳教育や人権教育を行っている」と考える回答が91%あった。今後も学校からの発信を続けていきたい。	A	・よく挨拶をするという印象だ。 ・感謝の気持ち、思いやりの心が育っている。	・道徳教育推進
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	〇いじめの未然防止、早期発見、適切対応、事後観察に努め、「学校が楽しい」と感じる児童が85%以上になる。	・各学年の発達段階に合わせた「いじめ」防止に関する授業を、1回以上行う。 ・学期に1回、教育相談週間に合わせて独自の「心のアンケート」をとり、担任や職員全体が関わって教育相談を行う。	A	・人権集会を通して、さまざまな人権問題について児童が考え、よりよい学校にしようと話し合ったり、言葉遣いに注意しようとしたりする姿が見られた。 ・アンケートの結果、「学校が楽しい」と感じる児童は「とてもあてはまる」が84%、「少しあてはまる」が10%、「あまりあてはまらない」が6%となった。目標の85%を超えており児童間の問題を担任を中心に対応できたことが良かった。	A	・学校での過ごし方と放課後の公民館での過ごし方に差がある児童がいる。公民館でも、ルールや決まりを守り、過ごすよう指導を続ける。	・人権・同和教育担当 ・担任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・「先生たちは、一生懸命に～」が90%、「自分は大切にされていると思う」が87%、「夢や目標に向かって努力する」が84%、さらに、「学校で友達と楽しく過ごせている」が94%と、学校が安心して学べる場として機能している。	A	・いろいろな体験活動を行うことができて、児童の心の成長になっている。	・担任
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	〇「大好き良い子カード」の生活チェックの点数が85点以上の児童を80%以上にする。	・「大好き良い子カード」の自己評価などを参考に、月ごとに成長や高得点維持について賞賛していく。 ・ノーテレビノーゲームデーを毎月1回設定し、結果を育友会と共有する。また、保護者への周知を行う。	A	・大すき良い子カードの生活チェックの点数が年間を通して85点以上の児童が約72%であった。中間よりも意識して頑張ろうとする児童が増えた。年間を通して70点以下が15%いたので、特に点数が低い児童への支援、呼びかけが必要である。 ・ノーテレビ・ノーゲームを毎月1回設定をしたが、取組にばらつきがあったため、家庭での協力を引き続きお願いしたい。	A	・ゲームで遊ぶ時間を家庭で決めて、きちんと守らせるようにしないといけない。使用について、保護者で管理してもいいのではないか。年齢を重ねるにつれて、指導できなくなる。	・心ゆたか部 ・体つくり部
	●「安全に関する資質・能力の育成」	〇児童の交通事故を0にする。	・下校指導において、毎日全児童に交通安全に関する注意喚起を行う。また、交通安全教室を1回以上実施する。 ・危険な事案や情報があれば、早急に公民館や育友会役員と情報共有をする。	A	・登下校中の交通安全に気を付けるように、下校時の話でくり返し指導したり、、地区ごとの反省会を開いたりした。 ・公民館の放送、地域の方の見守りなど引き続き協力いただいている。	A	・集団登校の時に遅れて出たときに、先に行ってしまっていることがあったので、高学年を中心に待つように心がけてほしい。 ・自転車を使って交通安全教室ができたのは良かった。	・養護教諭 ・生活指導 ・担任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日を定時退勤日とし、呼びかけを行い、全員で実践する。 ・業務を一人で抱え込むことがないように複数で行う。 ・調査、提出等がある業務は早めに周知し、余裕をもって取り組むようにする。	A	・超勤一人当たり10%削減には至らないが、時間外勤務の時間は減っている。 ・調査、提出がある文書については早めに周知し、期限を守るよう全員で心がけることができた。	A	・勤務条件の改善が人材確保につながる。	・管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
〇特別支援教育	〇教員の専門性と意識の向上	〇特別支援学級及び個別の支援が必要な児童の理解と対応について、成果指標を達成した教師90%以上にする。	・児童理解協議会において、特別支援学級在籍児童及び個別の支援が必要な児童の実態把握、具体的支援についての共通理解を図り、全職員で実践する。 ・特別支援教育の研修を年3回以上行う。 ・コグトレに取り組み、児童の認知能力の把握に努める。	A	・児童理解協議会の話し合いを学期に1回設けたり、特別支援教育の研修を行ったりすることで、全職員で具体的支援の方法を話し合い、実践につなげることができた。 ・教師がコグトレに取り組む児童の様子を見ることで、児童の困り感を理解したり、支援の仕方を工夫したりすることにつながった。	A	・特別支援学級の児童が、成長している。 ・今後も支援学級の児童が増えることが考えられる。	・特別支援Co ・教育相談担当

●･･･県共通　〇･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・自分の考えをもち、他者と話し合い、交流しながら学習を深めることを校内研のテーマにしているが、発言することを苦手としている児童がおり、交流が好きではないという児童もいる。伝え合う活動に必然性を持たせる指導方法の工夫や児童が協働的な学びに楽しんで取り組む手立てを模索していく。 ・今年度から校内研で取り組む教科を国語科と特別の教科道徳とした。児童が道徳の授業を好意的にとらえているとともに、保護者にも「学校は道徳・人権教育を行っている」と評価してもらった。今後も継続して心の教育にあたっていく。 ・安全教育、ゲストティーチャーとしての参加など地域の御理解、御協力を得ながら引き続き信頼される学校づくりに取り組む。そのために職員が個々の力を結集し、組織的に教育活動を行うようにする。 ・大好き良い子カードを活用しながら、児童が生活習慣を整えたり、ゲームや動画の視聴時間を自分でコントロールできるように指導していく。